広報ひらつか

No. 124

財政事情特集　29,200 部発行・全世帯配布

昭和31年10月5日第3種郵便物認可
発行所
平塚市役所
神奈川県平塚市平塚新宿1196
電話(代表)平塚局1351—1579

編集総務課(昭和37年3月)
臨時号・1部3円

第27回財政事情

市財政課は、昨年十二月一日第二川崎競馬事件で打撃を受けた。②十七回目の平塚市財政事情を公表しました。これは、条例のとりきめにもとづく定期的なもので、今回は、昭和三十五年度(前年度)の会期決算と、現昭和三十六年度前半期(四～九月)の、財政運営について説明しています。今回の財政事情では、①昭和三十五年度の平塚市財政は、年度末に起つた減少二千六百万円は、前年度までの黒字分をあてることによつてカバーし、対市民施策の面では影響を出さずにすんだ。③現三十六年度予算は、前半期九月末に三十二億円台に達し、前年同期より八億弱もまわる額を計上、市財政力の成長を実証できた。④この昭和三十六年度前半期収支は、総体収支で、支出が予算の五七・九パーセントにのぼつたにもかかわらず、二億五千万余円の巨額を歳計現金として市金庫に残し、後半期の財政運営に余裕を与えている、などの諸点を強調しています。

去る昭和三十三年度に赤字財政を解消してから三年、平塚市の財政は一千万単位の収入欠陥が生じても動じないところへきたといえます。

川崎競馬事件を克服

昭和35年度決算

波乱のなかで成長策守る

前年度、昭和三十五年度の決算期(昨年三月)における、市の一般会計と特別会計を合算した総体予算額は、二十三億六千万円台にとどまりました。この予算額は、その前年三十四年度の同期総体予算額二十五億二千九百万円にくらべ、一億六千九百万円ほど下まわるものです。

市勢ののびに逆行した総体予算額の後退は、昨年三月に起つた市営川崎競馬事件が原因となりました。

川崎競馬事件は、当時新聞で報道されたとおりですが、市はこれによつて、特別会計競馬事業費の予算額を、一挙に二億三千三百万円減額、六億円台から四億三千万余円に引きさげざるのやむなきに至りました。

このいきさつについては、前回の財政事情(七月広報紙上)で説明しましたが、当時財政課では「たとえ一部にせよ競輪競馬の収益金による財政のありかたは不健全であり不安定である。一日も早く、工場誘致や市民生活の繁栄を通じて収納できる財源の確保に努力し、市財政の完全な安定をはかりたい」と反省と注目をあつめました。この事件によつて、単に、競馬事業費を減額したばかりでなく、建設事業費にまわす予定えつた収益金二千六百万円が収入できなくなつたことも、この年度の財政運営に、大きなショックを与えました。

しかし、総体予算額は後退したとはいうものの、市民の生活に影響はでませんでした。減額したのは特別会計競馬事業費と、一般会計の収入面に予定した競馬収益金二千六百万円だけで、一般会計をはじめ、都市改造、国民健康保険などの特別会計の支出予算はいずれも前年度を上まわる予算額をもつて運営できました。

予定した収入が大きく減少した場合、支出予算も減らさなければならないのが常識ですが、昭和三十五年度平塚市の財政は、借金をすることもなく、この常識をこえて、しかも、実質においてその前年度をこえる運営を行なうことができたのです。

これは、市の財政力が、二千六百万円の収入欠陥をカバーしたためです。前年度昭和三十四年度末までに、赤字をのりこえて好転していた平塚市財政の黒字額は、四千三千万円に達していました。そしてもし川崎競馬事件がなければ三十五年度末においてこの黒字額は五千万円程度に達する予定でした。したがつて、三十五年度だけでは赤字を生む事態が生じても、余裕金としてもつていた前年度までの黒字額を投入することによつて切り抜けることができたわけではかりそめ、市財政力の充実ぶりを実証する結果となりました。

このように、昭和三十五年度の財政運営は波乱にとみ、総体予算額は一歩後退のやむなきに至つたとはいえ、対市民の面では、実質的な成果をおさめ、成長する市勢のテンポに相応した累進の姿勢をくずすことなく決算することができたと報告できます。

× × ×

決算の結果、昭和三十五年度一般特別会計競馬事業費と、一般会計の収入面に予定した競馬収益金二千六百万円をのぞき、特別会計を合算した市の総体予算額は、二十三億六千二十四万八千余円でしたが、この収支は、まず収入面で予算の九九・九%二十三億五千八百万余円を収入する好成績をおさめました。これに支えられた支出は、二十三億二千四百万余円で支出予算の九八・五パーセントでしめくくることができました。この収支予算額は、前記したように、その前年度よりやや縮少したものですが、縮少したなりに収支の均衡をはかることにつとめ運営効果をたかめることに努力しました。その結果を、以下、各会計別に説明します。

一般会計

健全財政確立後第二年度をむかえた昭和三十五年度の財政運営は、その前年からの姿勢をくずすことなく、引き続き①収支の均衡を保持すること、②[illegible]費の増大を[illegible]に行なうことの二点を方針としてすすめました。

この結果、三十五年度の投資的経費は、一般会計歳出決算の四四・六パーセントにあたる四億九百万円(前年度は四億二千万余円)をこえました。

これによつて行なつた事業の主なものは、①主要道路の整備改良、②下水道側溝の整備、③義務教育学校の整備、④市営住宅の建設、⑤消防施設の整備、⑥失業対策事業の強化、⑦農漁業、土地改良事業の振興と漁港整備などで、二パーセントの一覧表にあげたとおりです。投資的経費を使途別にみますと、トップは①土木費の二億二千四万円で三十五年度投資的経費のほぼ半分をしめ、続いて②教育費の一億一千九百十万円がはつています。あとは、③産業経済費の三千万円などとなつていました。

市の黒字額は、三十四年度末四千三十万円をこえていましたが、これが三十五年度末では一千五百万余円に減少したわけで、したがつて、黒字なお一千五百万

黒字なお一千五百万

競馬特別会計は大幅減額

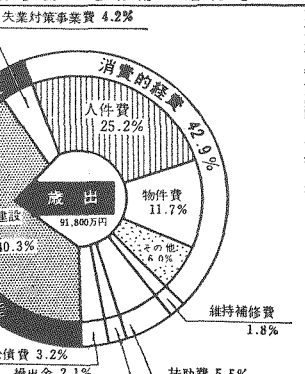
千四百十七万円、④社会福祉費の二千百十一万円、⑤市有財産造成費の一千四百三十三万円が高額をしめています。

一方、三十五年度一般会計の収支は、収入決算額九億四千三百七十一万余円(予算の九九・四パーセント)に対し、支出決算額九億二千八百十四万余円(予算の九六・七パーセント)でしめくくれました。

この額は、その前年度にくらべて、収入で約二千二百万円、支出面で約四千七百万円ほど多く総体予算額の後退とは逆に、市民の生活とともすべりついた一般会計の規模はひとまわり拡大させることができました。

以上の収支の結果、三十五年度決算の帳じりには、二千五百五十万余円の剰余金が配帳されましたが、これから、さらに、繰り越し事業分や、支払い繰りのべ分など、事実上三十五年度事業として支払わなければならない経費を差し引くと、市の、三十五年度末における一般会計の黒字総額は、一千五百三十二万余円となりました。

この年度の市営競輪事件にみまわれ、例年とおり六日制二回の開催予定を変更、事実上一回の開催におさえられた競輪収益の減少がもたらした結果であるといえます。



特別会計

競輪事業　競輪は、六日制を六回開催、毎回一億以上の売り上げを示す好調で合計七億八千六百万円を売り上げ、歳入決算額は八億三千百五十万余円を得ました。これに対して支出決算額は八億二千八百八十万余円(予算の九九・九パーセント)にとどまり、差し引き二百七十四万余円の剰余金を出しました。この結果、一般会計の財源に送り込んだ収益金は、一億二千九百万円をこえ、配録を更新しました。競馬に比し、競輪事業の収益は予算額とおりをあげ、しかも最高配録で、学校建設や土木事業に投入、大きな成果を収めました。

競馬事業　この年度の市営競馬は、前記した川崎競馬事件にみまわれ、例年とおり六日制二回の開催予定を変更、三十五年度は、二回の開催におさえられた。これに支えられ、予算収支は四億三千万円前後でいずれも決算、差し引き残二百七十万余円でしめくくつたものの、一般会計に送つた収益は、三十四年度よりおよそ一パーセント少ない二千七百三十八万余円にとどまりました。根幕を最少限にくいとめることができたのが、不幸中の幸いでした。

国保会計　国民健康保険事業は収入七千八百六十五万余円に対し、支出は七千七百万円台で決算できたため、七十六万円の剰余金を出して経営することができ、しかも、加入者一人当たり一千五百三十円(一人平均二・八七件分)の医療費給付を行ない、その使命をよく果しました。加入者の受診率は一百八十七パーセントの高率を示したことになりました。

しかし、三十四年度以来の経済界の景気上昇によつて雇用が増加し、国保加入者が、他の社会保険に吸収される結果が出てきました。三十四年度国保加入率は、全人口の四十一・一パーセントを数えていましたが、三十五年度では三・五パーセントに減少しています。

これと同時に、医療費の値上げも余儀なくされ、国保財政を板ばさみにしつつあります。

今後、国保健康保険事業は、運営のあらゆる面で、いつそうの研究と改善を行なつていかなければならないといえましよう。

診療施設事業　無医地区の診療を受け持つ六日制の市営[illegible]島診療所を経営しました。この会計は独立採算にはほとおく、収入決算額百六十八万余円の三パーセントにのぼる四九九万余円を一般会計から投入して運営しました。

簡易水道事業　たあたらしい市域のうち、とくに水質不良、水量不足に悩む地域に給水して[illegible]市営簡易水道は、金目、旭について三十五年度、大きく給水区域をひろげました。

これにより、三十五年度の簡易水道事業会計は、収入決算額三百七十一万余円、これに対する支出決算額は三千五十五万余円にのぼりました。この眼じりには剰余金百十五万余円が配録されましたが、この年度、一般会計から三百二万余円を繰り入れましたので、実質的には百八十六万余円の赤字に終つたといえます。

都市改造事業　この会計は、三十五年度から新設したもので、市が事業主体になつて、本宿・愚人・須賀北・須賀南の四工区百五万六千六百六十平方メ(三千二万一百坪)を区画整理することを目的としています。初年度でもあり、本格的な工事にはいるまでには至りませんでしたが、収入三千八百万余円、支出三千七百七十一万余円で決算しました。

火事 119 救急
消防への一般連絡 3240

写真上・川崎競馬事件を報道した事件発生時の新聞……公営事業課提供

予算額八億円ふえる

保有現金二億五千万

力と安定度深める市財政

現三十六年度前期収支

昨年三月末成立、同年四月一日から運営にはいった現昭和三十六年度の平塚市予算は、住民の生活安定と福祉をたかめる事業に最重点をおき、収支の均衡保持と行政水準の向上をはかる立場から編成したものです。この前半期（昨年四月～九月）の収支状況は、ほぼ次のとおりでした。

まず、三十六年度の会計（一般会計・競輪・競馬・国民健康保険・直営診療所・簡易水道・都市改造・馬入工業地帯造成）の当初予算総額は、二十五億七千九百万余円でしたが、九月に一般会計ほか特別五会計に追加予算を行なった結果三十六年度前期九月末の全会計総体予算額は、三十二億六百万円弱に達しました。これを、その前年度三十五年度の同期に比較すると、七億九千九百二十万円も多く、市財政力の大きな成長を実証しています。

この総体予算の昨年九月末におけを収支は、収入が十七億四千五百万余円（予算の六七・七%）の高率を示した結果、支出十四億九千四百万余円（予算の五七・九%）を出したにもかかわらず、差し引き二億五千百万余円という大きな額が市金庫に残りました。この収支残も、前年度同期のものと比較すると六千万円以上も多く、最近十一億六百万余円をもって運営に当ついました。

この収支は、収入五億三千百万余円（予算の四八%）を得たのに対し、支出が三億四千九百万余円（予算の三一・六%）にとどまり、収支とも、その過半を後期に送ったため、収支差し引き一億八千百万余円の収入超過を出しました。以上の収支のうち、費目別にみた主なものは次のとおりです。カッコ内は費目別予算額に対する比率です。

▽収入面・①市税一億九千六百万余円（五一・六%）、②競・競馬収益から一億三千万円（五〇・五%）、③国からの地方交付税一千九千万余円（一八・二%）④国庫支出金一千八百万余円（一七・三%）、⑤使用料手数料収入一千七百万余円（五四・二%）その他。

▽支出面・①役所費八千七百万余千四百万余円（二七・七%）、②教育費六千四百万余円（二〇・四%）、③土木費四千三百万余円（一〇・七%）、④産業経済費三千四百万余円（五二・五%）、⑤社会福祉費一千三百万余円（三八・一%）、⑥諸支出金一千二百二千九百万余円ほどでした。

国民健康保険事業の予算二万余円の残を出しました。

都市改造の都市改造事業会計は、本年度七千八百万余円の予算額で区画整理をすすめていますが、この会計も、九月末九百万余円の収入超過を出しています。

本年度新設した、馬入工業地帯造成事業会計は九月末において予算額三千六十万余円、収支差し引き七百三十万余円の残を出しました。

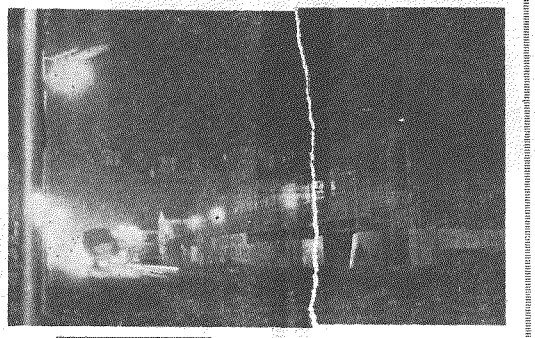
都市計画馬入工業地帯造成事業会計は七千万余円の予算を組み、馬入地域の工業団地造成にあたっています。この財源は、全額日本住宅公団支出金をあてることになっており、九月末までの、住宅公団からの支出が少額であったため、この会計に限り、今期の予算支出が二・八パーセントの低率であったにもかかわらず、百九十万余円の支出超過を出しました。

昨年九月末における市財政の打ぢも、その後の年度に比べ、この限りにおいて、前年度三十五年度末に起つた川崎競馬事件による尾を引くことなく、三十六年度前半においてすでに、完全に埋めあわせをおえた、とみることができます。したがつて、昨年の財政事情のときにも報告した市政運営の前向きの姿勢は、これを、いささかもかえる必要はない、といえるのです。

馬入工業地帯造成会計を新設

国保給付21,000件増

一般会計の執行後半期へ送る



完工6月15日をめざして工事をすすめている市民センター……夜間工事

一般会計

今財政事情で決算報告を出した、昭和35年度（前年度）の一般会計において、支出総額の44・6パーセントに及んだ建設的投資的経費の内容は次のとおりです。

△役所費・計285万余円。
会計機構入255万円、新市庁舎建設設計謝礼30万円。

△消防費・計577万余円
消防車購入160万円、第10第17第19分団庁舎建設205万円、消防井戸消火栓新設など211万円。

△土木費・計2億24万余円
モータグレダー購入110万円、道路側溝新設585万円、市道土部東宮線改良236万円、市道河内徳延線改良288万円、市道四之宮真土改良206万円、市道城島一号線改良356万円、市道小熊遺藤原線改良414万円、市道南町通り東浅間線舗装347万円、市道桜ケ丘平塚線改良219万円、市道入山瀬線改良162万円、市道金目久保線改良230万円、市道霊園幹道6号線新設352万円、神田住宅道路改良99万円、魚市場前舗装500万円、道路用地売収337万円、道路新設改良関係事務費63万円。
小桜川水路改修300万円、河内一号線排水路補修20万円、三沢川しゆんせつ5万円、新川河床整理20万円、杷批橋排水路改修69万円、座禅川護岸40万円、第7号排水路改修119万円、金田排水路改修35万円、徳延排水路改修3万円、その他排水路補修11万円、旭地区用排水路設計調査10万円。
東浅間大島線街路測量45万円、後谷八幡線計画街路測量17万円、追分土屋線計画街路測量45万円。
須賀打越羽衣線舗装750万円、同街渠32万円、東浅間大島線舗装など200万円、後谷八幡線築造80万円、海岸南中線街路新設59万円、馬入一号線街路整備450万円、街路簡易舗装431万円、駅南口街灯新設8万円平塚海岸伊勢原線等用、売地収費ほか682万円、街路整備関係事務費4万円。
後谷特別都市下水路新設193万円、都市水利第8号排水路新設750万円、区画街路側溝新設861万円、都市下水幹線新設調査設計100万円、下水道新設関係事務費8万円立野町公園・菖平公園整備30万円、高麗山公園整備149万円、湘南海岸整地事業50万円、湘南平営造物修繕7万円、湘南海岸公園整備策定関係費34万円、都市公園整備関係事務費5万円。
工業団地幹線第1号排水路新設1043万円、同第2号排水路110万円、工業団地1号線街路整備186万円、工業団地整備にともなう補償料54万円、都市計画にともなう補償料30万円、戦災土地区画整理事業負担金5299万円、失業対策事業3879万円。

△教育費・計1億1910万余円。
江陽中校舎2415万円、浜岳中校舎1269万円、大野中校舎1509万円、神田中校舎301万円、金地中校舎383万円、中原小校舎977万円、港小講堂兼屋内運動場1739万円、商業高校付属舎整備280万円、金田小給食場215万円、吉沢小給食場214万円、富士見小便所改築275万円、金目小便所改築59万円、港小給食場改修82万円、松原小給食場改修富士見給食場改修77万円、城島小給食場改修40万円、各小学校付属施設改修等64万円、豊田幼稚園付属施設等新設38万円、大野中神田中神田小県営水道工事30万円、花水小付属施設整備29万円、江陽中学校舎鐵越分106万円、各校校地整備253万円。高浜高校校舎整備寄付金1004万円。松原公民館456万円、対岳楼整備保存費30万円。

△社会福祉費・計2111万余円。
母子寮整備31万円、神田・須賀保育所付属施設整備21万円、東中原市営住宅水道引込み109万円、神田市営住宅県営水道引込み10万円、市営住宅建設1937万円。

△保健衛生費・計669万余円。
ごみ収集車購入154万円、小型ダンプカー購入84万円、畜類死体焼却所新築34万円、大神清掃作業所整備293万円、四之宮し尿中継そうう回路新設293万円、プール整備84万円。

△産業経済費・計3417万余円。
（補助金）園芸振興フタームハウス49万円自給飼料用サイロ7万円、新農村建設施設整備165万円、四之宮土地改良41万円、真土暗渠排水8万円、金目川沿岸土地改良24万円、馬入土地改良704万円、大野土地改良667万円相模川西部土地改良127万円、八木間分水路工事16万円、豊田かんがい排水38万円、別名土地改良14万円、小鍋島暗渠排水40万円、入野かんがい排水17万円、丸島かんがい排水9万円、上耕地かんがい排水3万円、笠張堰改修10万円、小鍋島かんがい排水12万円、八熊かんがい排水9万円田畑、機械揚水14万円、千須谷暗渠排水11万円、大城かんがい排水86万円、広川暗渠排水7万円、その他かんがい排水事業48万円魚市場整備37万円、漁港整備負担金581万円漁港維持補修事業負担金250万円。
須賀河口公衆便所新設75万円。

△財産費・計1433万余円。
霊園用地買収351万円、金目小敷地買収12万円、岡崎小敷地売収27万円、消防第21分団庁舎敷地買収20万円、物件移転補償47万円、松原校敷小国有地払い下げ192万円、高浜高校敷地払い下げ782万余円。

△諸支出金・計497万余円。
防火建築帯造成補助289万円、首都圏整備対策事業157万円、県社会福祉会館増改築費負担金15万円、県医師会館建設負担金30万円、県立茅ケ崎高校体育館兼講堂建設寄付金5万円。

特別会計

競輪事業
今期競輪事業会計の予算総額は十億四千四百万余円で、この収支とも六十パーセント台の執行率を示し、七億二千万余円（予算の六九・五%）を収入、六億七千四百万余円（予算の六四・五%）を支出しました。この結果四千六百万余円の収支残となっています。この間、四、五、七、八月の四回競輪を開催、総売り上げは六億九千六百万余円でした。

競馬事業
月末における予算額は七億九千七百万余円、この収支は収入四億三千五百万余円（予算の五四・六%）を得たのに対し、支出が四億一千八百万余円（予算の五二・五%）にとどまったため、差し引き一千六百万余円の収支残を出しました。この間の競馬開催は八月一回で、売り上げ四億二千九百万余円ほどでした。

国民健康保険事業の予算は、九月末七千六百万余円で、六百九十六万余円の収支残をのこしています。九月末現在における事業内容は被保険者（加入）世帯一万四百七千、同保険者数は四万一千八百十五人で、市内人口の三七・二パーセントにあたる5人にあたる。
・二パーセントにあたる医療保障にあたり、この人たちに対して、医療給付（医者代の支給）六万三千四百五十三件、助産給付二百六十八件、葬祭給付百六十四件を行ないました。
これを前年度同期にくらべますと被保険者の〇・三パーセントが社会保険に吸収されて減少した反面医療給付二万一千七百七十三件、助産給付七十件、葬祭給付三十二件が逆に増加しています。

直営診療所
国民健康保険直営診療所設置事業会計は、今年度百七十三万余円の予算をもって、城島診療所の経営にあたっています。この会計の九月末における収支は、五万余円の収支残で、今期扱った診療件数は一千百七件でした。

簡易水道
金目、旭、上粕屋を給水区域とし、さらに岡崎、城島、豊田の一部に開催は八月一回で、売り上げ四億二千九百万余円ほどでした。

国民健康保険事業の予算額は十億給付二百六十八件、葬祭給付百六十四件を行ないました。

財産16億9千万円

1時借り入れ金ゼロ

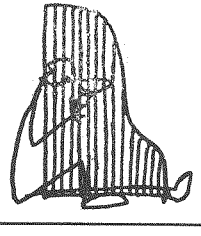
昭和三十六年九月末における、市有財産、公債、一時借入金などのあらましは次のとおりです。

財産：市有財産の総額は、十六億九千百九十五万余円です。内訳は、建物四万三百十四坪で十一億一千九百十八万余円、土地二十四万一千四十二坪で五億六千百八十万余円ほかに、証券二百三十二万余円現金七百八十三万余円となっています。この額は、その前年度より円五千七百五十二万余円の増を示すものです。

公債：大蔵省、郵政省等から長期借り入れした公債の現在高は、合計二億三千二百五十六万余円です。このうち一般会計分は一億九千九百十八万余円、都市改造事業分七百万円簡易水道事業分二千六百三十七万余円となっています。

一時借入金：資金操作の好転によって、一時借入金は皆無の状態です。その上別項にも書きましたように、収支差し引き二億五千百九万余円の歳計現金を市金庫にもつに至っています。

入札資格の書き換え

会計課関係・4月20日まで
建設課関係・4月15日まで

市と取り引きしたい業者は、お忘れなく手続きをとつてください。これをしてお受けられないと、市関係の発注をなくなります。